



「臥竜鳳雛」



*タイトルの意味は？調べてみよう

2020・4・24日 第22号

学年主任 森本 聡一郎

1. 「今 できること」 何事も前向きに

春雨が穀物の成長を促す時期といわれる、二十四節気の一つ「穀雨（こくう）」の19日、丹波地方も一斉に田植えの準備が始まったように感じる。一向に収まる気配のない新型コロナウイルス。先の見えない状況の中、いかに「淡々とやる」かが大切である。5月6日までの我慢我慢と捉えると、非常事態宣言が延期された場合にしんどい思いをしないか不安がよぎる。注意することはたくさんあるが、肩の力を抜いて「淡々と」生活を送りたい。

阪神・淡路大震災が起きた1995年、プロ野球オリックスは「がんばろう KOBE」を掲げてリーグ優勝を飾り、沈む被災地に元気をくれた。東日本大震災から2年後の2013年には楽天が日本一に輝き、東北に笑顔を広げた。未曾有の困難にあって、スポーツは苦しむ人々の力になってきた。

しかし、新型コロナウイルスが猛威を振るう今回はどうか。プロ野球やJリーグは延期続き。選抜高校野球、競泳の日本選手権などは軒並み中止で、励ますどころか、まるで世の中からスポーツが消えたようだ。観客がスタジアムに集い、白熱のプレーに会場が一体となって声援を送る。そんな醍醐味は、最優先の感染対策で見れば排除の対象。スポーツはウイルスに弱い、と思いきらされた。現状はある面で、戦中にも似ている。戦争の激化で1940年の東京五輪は幻に。今の高校野球に当たる中等学校野球なども、続々と中止に追い込まれた。

ただ、復活は早かった。プロ野球は終戦の年の11月に東西対抗試合が開かれ、翌年にリーグ戦を再開。中等学校野球は玉音放送の翌日、後に日本高野連会長となる佐伯達夫氏が主催新聞社に復活を訴え、1年後の全国大会は西宮球場にファンが押し寄せた。現在の高校ラグビー、高校サッカーもすぐに再開。みんなスポーツを待っていた。

スポーツが今できることは少ないかもしれない。でも終息時には、その存在意義を再確認できると思う。スタジアムに歓声が響き、テレビやスマートフォンを見ながら興奮の叫びを上げたとき、私たちは「日常」が戻ってきたことを実感できるはずだ。必ず来るその日を、今は楽しみに待ちたい。

ねんねんさいさい
年年歳歳

はなあいに
花相似たり

さいさいねんねん
歳歳年年

ひとおなじ
人同じからず

劉 廷芝（中国唐代の詩人）

人間に与えられるものの中で一番平等に与えられているものは「時間」でしょう。しかし、使わなければ減ることのないお金に比べて、時間は使わなくても無くなってしまいます。

みなさんの入学以来、早くも1年が経過しました。季節はまた春に戻りました。今年も桜は美しく咲いてくれました。人の世は歳月とともに変わっていくのです。自然が不変の営みを繰り返しても、時は移り、日は流れ、世の中は変わります。無常の儚さに一抹の寂寞（せきはく）を覚えるものの、だからといって現状に留まり続けたり、惰性に身を任せておくわけにはいかないのです。一人一人が新しいクラスの中で、学校の中で大いに活躍してくれることを心から願っています。

副担任の先生方から一言

1組 山下 麗 先生

「十人十色」

国語科の山下麗（やましたれい）です。授業以外でも一人一人の良いところ探しができたら嬉しいです。今は特に物思いが多い時期だとは思いますが、だからこそ「ひとそれぞれ」という言葉を意識してくれたらなあと思います。人と何かを比べると消極的になってしましますが、自分は自分と割り切ることができれば結構心が軽くなります。心が軽くなれば視野が広がることもあるので。……とは言いましたが、私自身割り切ることが苦手なので、お互いに自分らしくいられることを目標に一年を頑張っていきましょう。引き続き古典漫画を描いていく予定なので、そちらもよろしくお祈いします。

2組 原 孝拓 先生

「コロナニマケズ」

淡路島の津名高校からやってきました原 孝拓（はら たかひろ）といいます。1年間よろしくお祈いします。昨年1年間は淡路島にいましたが、学生時代は丹波篠山市で過ごしたので、実はこの地域のことはよく知っています。

今年1年は日本各地へご当地グルメを食べる旅に出たかったのですが、コロナのおかげで出られそうにありません（泣）。なのでせめて健康な体の維持のために定期的な運動を、特に部活でしっかり体を動かしたいなと思います。みなさん健康で、この1年を頑張っていきましょう。

3組 細見 将秀 先生

「自分づくり」

今年度、2年生の副担任をすることになりました。昨年度は、2年生の授業は半分しかしていなかったので名前がわからない人もまだたくさんいます。今年度は全クラスの体育の授業をすることになります。よろしくお祈いします。

実は、昨年度で定年退職になり、再任用でお世話になります。先日、退職者の会というのがあって参加した時、「先生方は、これまで『人づくり』に励んで来られましたが、これからは『自分づくり』に励んでください。」と言われました。人生において一区切りつき、今までを振り返った時、月日がどんどん流れて、いつの間にか、今に至ったように思います。これからは一日一日を大切に有意義に『自分づくり』に励もうと思っています。君たちも、残り的高校生活は、残りの人生の方向づけをする大事な時になると思います。悩むことも多いと思いますが、一緒に頑張りましょう。

4組 中西翔一郎 先生

「高2の思い出」

高校時代を思い返すと、2年生の時がターニングポイントだったかなあとと思います。勉強の楽しさが分かってきたこと、オープンキャンパスがきっかけで志望校を変更したこと、春休みにワラワラに短期留学に行き興味が広がったこと、等々…。30代になった今でも自分に影響していることが多いと感じています。新入生でもない、そして受験生でもないこの1年間を使い方は非常に大切です。目標を持ち、有意義に過ごしてください。